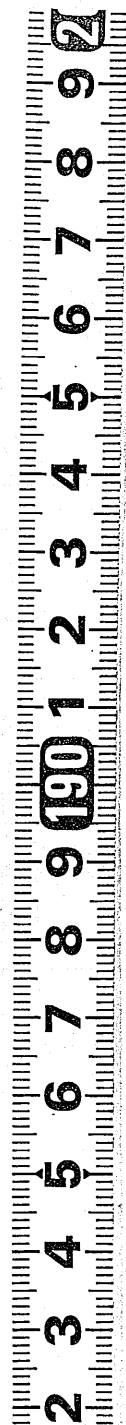


小學日本地理 卷之一

地部

ハ 330
宮 410



明治二十九年九月十四日 文部省檢定
高等小學校地理理科生徒用

國光社編纂

小學日本地理 卷之一

東京 國光社

小學日本地理

例言

寄附宮本貞氏

一、此の書は、小學校令教則大綱の趣旨に基き、高等小學校第一第二學年の日本地理教科用書に充てんが爲、編纂したるものなり。

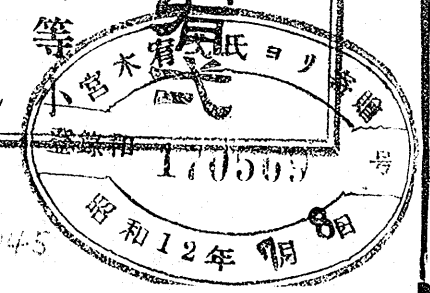
一、此の書は、本邦地理の大要を知らしめんが爲、畿内各道著名の山川、都會、名所、舊蹟、物産等を挙げ、且、殖産、商業等の地理上に關する事項等を知らしめんここに注意したり。

一、此の書の挿畫は、一々寫眞によりて模寫したるものなれば、各地の實況を知るには、最利益あること

小學日本地理

例言

國光社發行



88012045

明治二十九年九月十四日 文部省 検定済
高等小學校地理理科生徒用

國光社編纂

小學日本地理 卷之一

東京 國光社

小學日本地理

例言

寄附宮本貞氏

此の書は、小學校令教則大綱の趣旨に基き、高等小學校第一第二學年の日本地理教科用書に充てん

る爲に編纂したるものなり。

一、此の書は、本邦地理の概要を知らしめんが爲、畿内各道著名の山川、都會、名所、舊蹟、物産等を挙げ、且、殖産、商業等の地理上に關する事項等を知らしめんここに注意したり。

一、此の書の挿畫は、一々寫眞によりて模寫したるものなれば、各地の實況を知るには、最利益あること

88012045

昭和12年 11月 8日

を信ず。

明治二十九年四月

編者 識

小學日本地理卷之一

宮水有藏書

目録

第一章 總論

第一 位置及地形

一

第二 土地の區分

二

第三 氣候生業產物

三

第二章 畿内各道誌上

第一 畿内

畿内地圖
畿内地誌略表

五

第二 東海道

東海道地圖
東京市全圖
東海道地誌略表

十二

小學日本地理卷之一

國光社編輯

第一章 總論

第一 位置及地形

我が大日本國は、五つの大島と、數多の小島とより成り、東北より、斜に、西南に向ひて、長く延び連れり。此の五つの大島の中にて、最大なるを、本州、又は、本島といふ。本州の北にあるは、北海道にして、古の蝦夷島なり。本州の西南なる二島は、其の小きを四國といひ、大なるを九州といふ。九州の西南

五大島

境界

海岸

山脈

に、遙に離れたる一つの大島を臺灣といふ。
全國の四面は、皆、海にして、東は、太平洋に面し、
北は、オコーツク海に臨み、千島海峡と、宗谷海峡
とにて、露西亞の領土に境し。西北は、日本海、およ
び、支那海を隔て、支那と朝鮮とに隣し、南は、南
洋の諸島と相望めり。
海岸は、頗、屈曲して、岬灣多く、大船を泊むるに便
なる良港も、亦少からず。内地は、中央に、大なる山
脈、東北より西南に亘り、支脈、左右にはびこり、本
州の中部に至りて、最、高く峻しき山となる。

開國

平野

河流は、皆、山脈の間より出でて、海に注ぐ。され
ど、地形の細長きが故に、長流甚稀なり。平野は、大
河の兩岸に沿ひて、海邊に近き地に多し。

第二 土地の區分

大日本國の地を分ちて、畿内、八道、八十五國とな
し、又、別に、臺灣の一島あり。其の、畿内八道に屬
する國の名、臺灣島に屬する島の名を、左に示さ
ん。

畿内八道

畿内五个國

山城 大和 河内 和泉 攝津

東海道十五個國

伊賀 伊勢 志摩 尾張 參河 遠江 駿河
甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總
常陸

東山道十三個國

近江 美濃 飛驒 信濃 上野 下野 磐城
岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後
北陸道七個國
若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡
北海道十一個國

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高
十勝 釧路 根室 千島

山陰道八個國
丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見
隱岐

山陽道八個國
播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防
長門

南海道六個國
紀伊 淡路 阿波 讚岐 伊豫 土佐

西海道十二個國

筑前 筑後 豐前 豐後 肥前 肥後 日向

大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

臺灣

臺灣島 附屬 澎湖列島

我が國は、政治を行ふ便宜の爲に、畿内八道八十五國を、更に區劃して、一道廳、三府、四十三縣に分つ。又、其の道廳府縣の下に、郡市町村のわかちあり。臺灣島は、總督府を置きて支配せり。

第三 氣候生業產物

氣候は、地勢の長さに従ひ、地方によりて、甚しき差ありて、寒さ暑さ一様ならず。然れども、極南の一部を除きては、概、夏は暖熱にして、雨多く、冬は寒冷にして、雨少きを常とす。土地は肥沃にして、瘠せたる地少く、田野大に開け、人民も、農事を業とするもの多く、次は、漁業、工業、商業を營み、其の他の業をなすもの、甚少し。

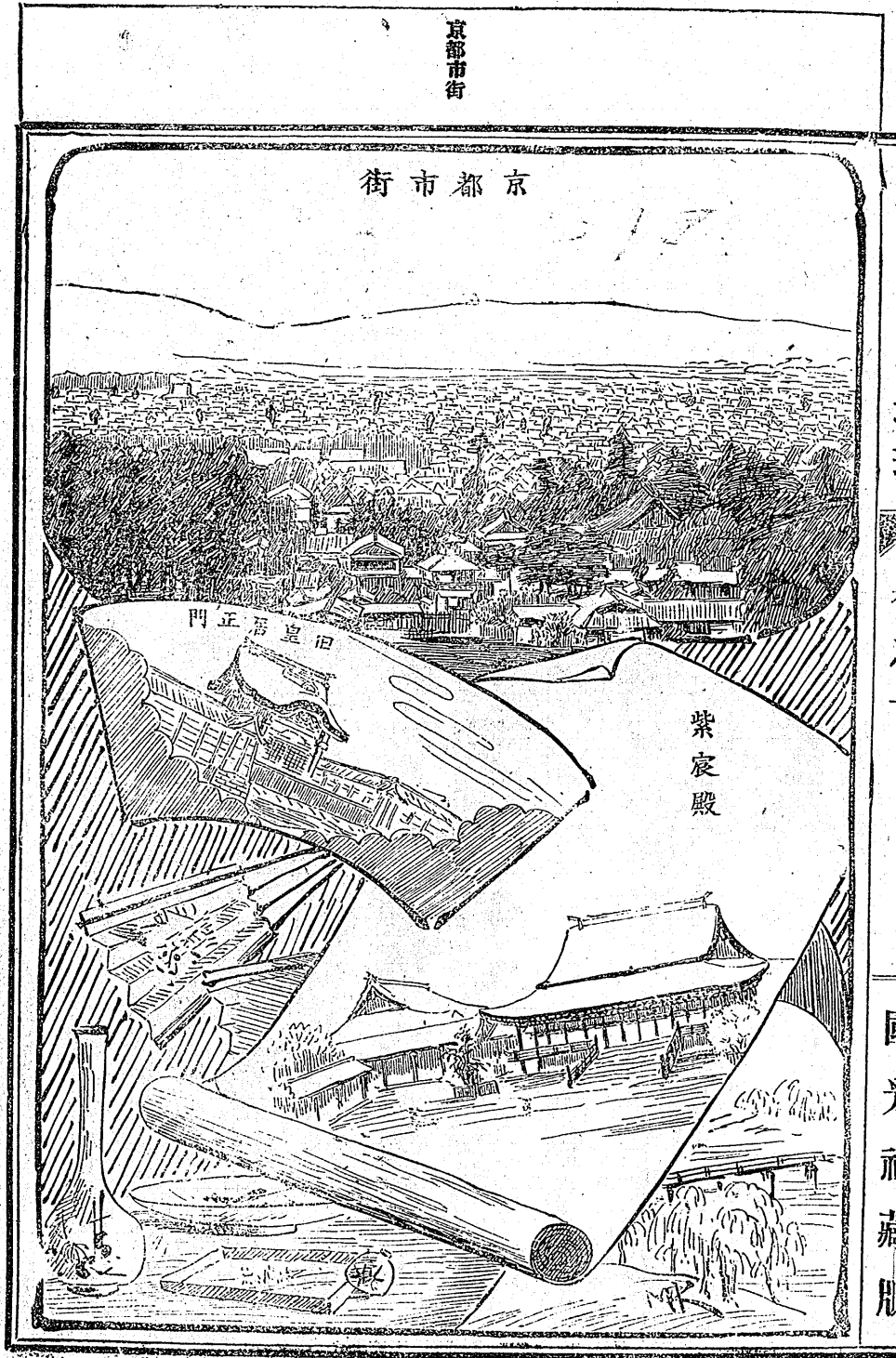
產物は、穀物、茶、砂糖、煙草、蠶絲等、最夥しく、山林よりは、良材を出し、地中よりは、諸種の礦物を出し、水中よりは、多く、魚、介、海草の類を產出す。

又、製造の產物も、頗多く、其の中にも、織物、陶器、漆器は、我が國特種の產物にして、最名高し。其の他、繪畫、彫刻などの、巧妙なる製作物甚多し。

産物	氣候	河流	地勢	境域	畿内
----	----	----	----	----	----

第二章 畿内各道誌 上
第一 畿内

畿内は、本州の中部にありて、山城、大和、河内、和泉、攝津の五國に分たる。東に、東海、東山の二道あり。南に、南海道あり。北西に、山陰、山陽の二道あり。皆、山脈を以て境を分ち、畿内の大かたは、山多く、西の一方は、平野にして海に臨む。これを茅渟チヌ海と云ふ。淀河ヨドガハ、大和川は、平野の間を流れ、運輸灌溉の便あり。氣候は、概溫和にして、土地肥に、田野大に開け、農産に富み、美術、工藝の製作、亦、最盛



なり。

京都は、山城にあり。市街は、鴨川にまたがりて、道筋正しく地平なり。人口凡三十二萬八千餘。此の地は、桓武天皇以降、七十一世、一千八十餘年間の帝都たりしが、明治元年に至りて、都を東京に遷されたり。されど、皇居は、今に舊形を存していと尊し。

物産は、西陣織、鴨川染、たよび、清水焼、栗田焼等の陶器あり。

此の地は、古、平安城と稱し、四方に、名社大寺甚多

山

く、平安神宮、北野神社、貴船神社、加茂神社、八坂神社、月輪御陵、清水寺、東寺等は、皆、其の著名な



(桂川上流)

いひ、北にあるを、鞍馬山といひ、東北にあるを、比

るものなり。

京都の西に嵐山あり。風光甚佳なり。其の他、高尾山、金閣寺等の名勝あり。京都の西北にある山を愛宕山と

物産図説

伏見
茶



(宇治の茶園)

叡山といひ、東南の國境にあるを、笠置山といふ。此の山は、後醍醐天皇の、難をさけ給ひて、楠正成を召し、大事を委ね給ひし處なり。伏見は、京都の南三里にあり。淀河の岸に沿ひ、京都大阪間の、運漕の要地たり。宇治は、伏見の東二里餘にあり。製茶の業盛にして、其の

川

大和
奈良

名社

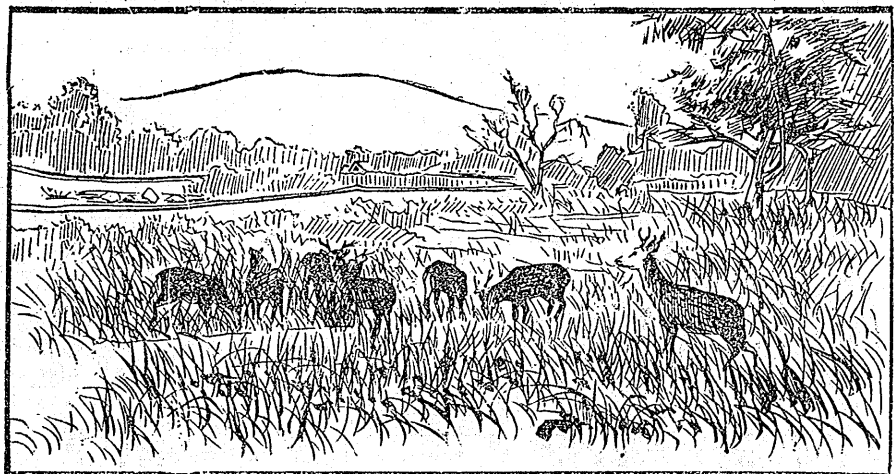
古寺

名最著る。

宇治川は、近江の琵琶湖より發し、鴨川、桂川の水を合せて、淀河となり、又、木津川を合せて、大阪灣に注ぐ。

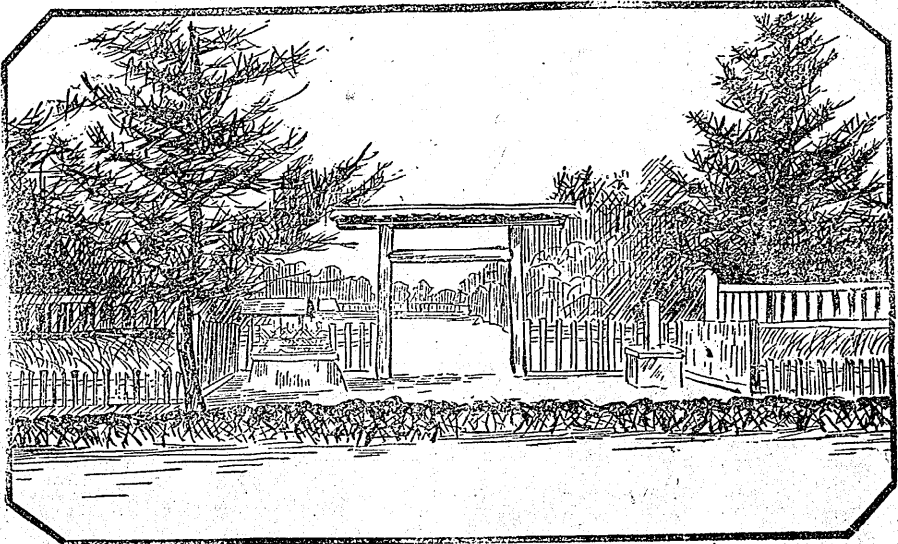
奈良は、大和の北境なる一都會にして、古、元明天皇より、七代の帝都たり。春日神社、三笠山の勝、殊に著る、東大寺は、聖武天皇の建てさ

(山 日 春)



物産

山



(神武天皇御陵)

せられし寺にて、その大佛は、甚名高し。此の地奈良晒、墨等の名産あり。又、奈良の西三里に、法隆寺あり。推古天皇の建立にして、我が國第一の古き寺なり。この近傍の一部は、平坦にして田野多し。畝傍山は、大和の中央にある小山にして、其の東北

山	河内	川
---	----	---

に、神武天皇の御陵あり。其の東南に、橿原^{カシハラ}の宮址ありて、こゝに橿原神宮あり。其の他、歴代の山陵、處々に存在せり。大和の南部は、山嶺相連り、其の内、殊に名高きを、吉野山とす。此の山には、櫻樹極めて多く、一目千本の稱あり。花時の風景、實に比ぶべき處なし。この山は、後醍醐天皇以後、南朝四代の、行宮のありし處なり。

大和川は、西に流れ、河内の狹山池^{サヤマノイケ}の水を合せ、和泉、攝津の堺をなして、茅渟海に注ぐ。

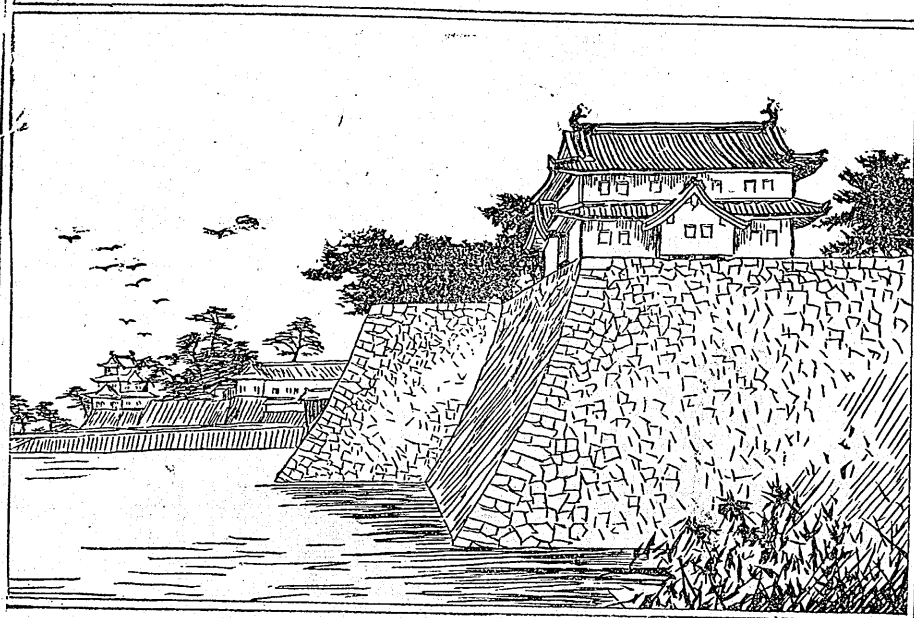
金剛山^{コンガクサン}は、河内と大和との境に聳じ、山の半腹に、

山	産物	和泉	堺	物産	攝津	大阪	人口
---	----	----	---	----	----	----	----

楠正成の據りし、千劔破城の跡あり。此の山の西は、平野廣く、和泉に連り、土地肥沃なるを以て、農産物多く、世に名高き、河内木綿の產地なり。

和泉の堺は、北の方、大阪を距ること三里にして、汽車の便あるのみならず、諸國と、舟行の便あり、古は、外國と、交易をなしたる港なり。名産は、及物^{モノ}、緞通^{ダンツウ}、鐵器等なり。

大阪は、攝津にあり。市街は、淀河の下流に跨り、大阪灣に臨み、第四師團、造幣局、大阪府廳等あり。人口による四十八萬四千餘、諸道往來の要



(城 阪 大)

路に當り、水陸交通の便あるを以て、百貨輻輳し、市街繁盛にして、商業の盛なること、我が國第一とす。この地は、古難波^{ナニハ}と稱し、仁德天皇の宮居のありし處なり。大阪城は、豊臣秀吉の築きし所にして、今、第四師團の本部

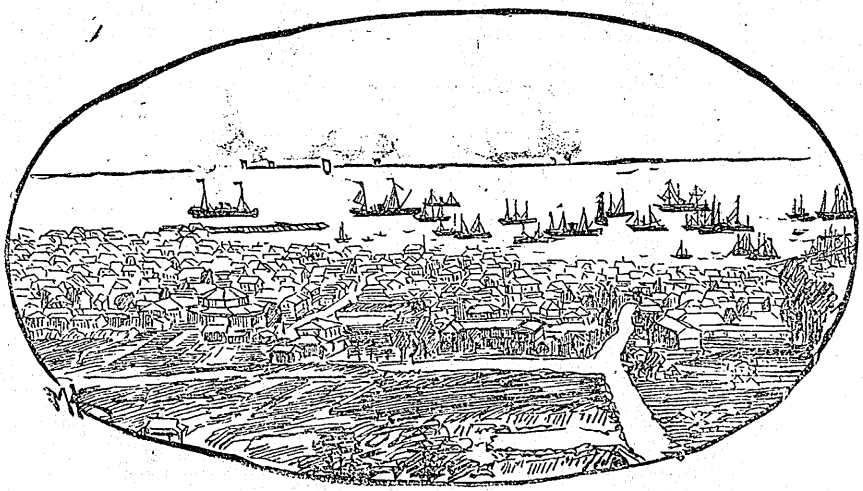
神記

人口

たり。又、南に住吉神社、東に四天王寺あり。

神戸港は、大阪の西八里にあり。我が國五港の一にして、湊川^{ミナトガハ}を挟みて、兵庫に接し、一市街をなせり。人口、たよる十五萬九千餘、灣内水深く、大船の碇泊に便なれば、外國との交易盛にして、市街繁華なり。此の地に

(港 神)



湊川

名勝

物産

兵庫縣廳あり。

湊川は、楠正成の戰死せる地にして、其の傍に、正成の墓、並に、正成を祀れる湊川神社あり。

兵庫の南に斗出したるを、和田岬といふ。其の西の海岸は、白沙青松相連りて、風景甚よろし。この一帯を、須磨浦といふ。又、古、源平の戰ありし鵜越、一谷等の舊跡あり。

攝津の物産は、池田、伊丹の酒、神戸の牛、池田炭、天王寺蕪、御影石等なり。

畿内地誌略表

和 大		山 城						山	河	池	岬	港	海	都	邑	名	勝	産	物
吉野山		畝傍山	笠置山	比叡山	愛宕山	鞍馬山	高尾山	嵐山	鳴川	桂川	宇治川	淀河	木津川						
大和川																			
奈良		宇伏京						都						邑					
橿原	法隆寺	東大寺	三笠山	春日	金閣寺	貴船	清水	八坂	加茂	東寺	北野	平安神宮							
墨		宇治茶																	
奈良晒																			

河 内	和 泉	攝 津
金剛山		
狹山池		湊川
	堺港	大坂灣 神戸港 和田岬
	茅渚海	
	堺	大坂 兵庫 伊丹 池田
		天王寺 住吉 須磨 一ノ谷
木綿	刀物 綬通 鐵器	池田酒 伊丹酒 神戸牛 池田炭 天王寺藥 御影石

東海道

地勢

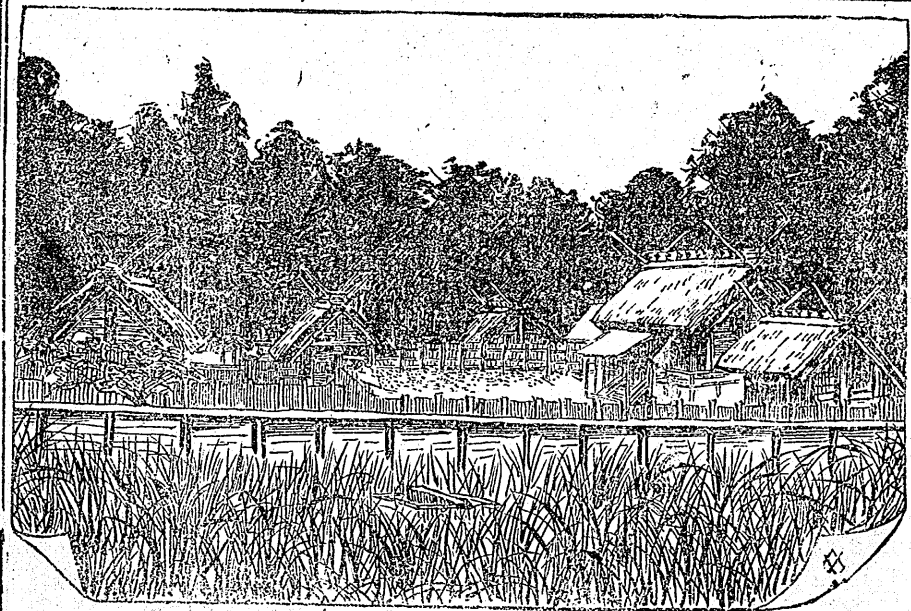
關東

氣候

第二 東海道

東海道は、畿内の東より、長く東に延び、南と東は、太平洋に臨み、北に山脈を負ひて、東山道と堺し、河流、概、東と南とに注ぐ。これを、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸の十五國に分ち、又、相模より東の六國と、東山道の、上野、下野とを合せて、關東八州の稱あり。其の間には、本邦第一の平野あり。氣候は、一般に溫和なれども、小笠原ガサハの諸島は、遠く南方に離れたるを以て、氣候暖熱なり。

伊賀 上野 伊勢 四日市



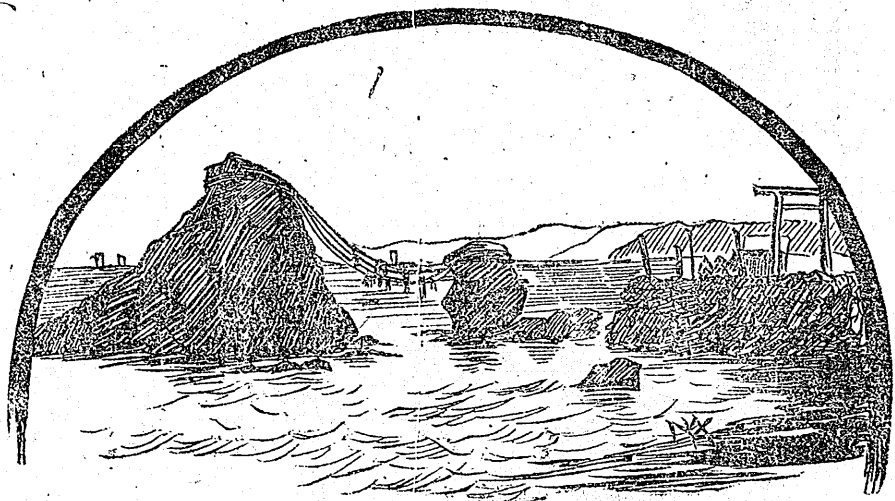
本道は、伊賀、志摩、甲斐、伊豆の外は、みな、田野遠く開け、土地肥に、且河流多きを以て、灌漑に便なり。

(宮) 伊賀國は、四方、皆、山にして、一都會あり、上野といふ。伊賀の東に、伊勢國あり。此の國の北部に、四日市あり。伊勢内

内宮 名所 港

海の良港にして、東西の船舶、常に往來し、關西鐵道を通じたれば、運輸いよいよ便なり。中部には、津あり、即、阿濃津といひし處にて、三重縣廳あり。南部には、宇治、山田あり。宇治には、天照大神を祀れり。これを内宮といふ。山田には、豐受大神を祀れり。これ

(圖 見 二)



外宮

物産

志摩
島羽
内海

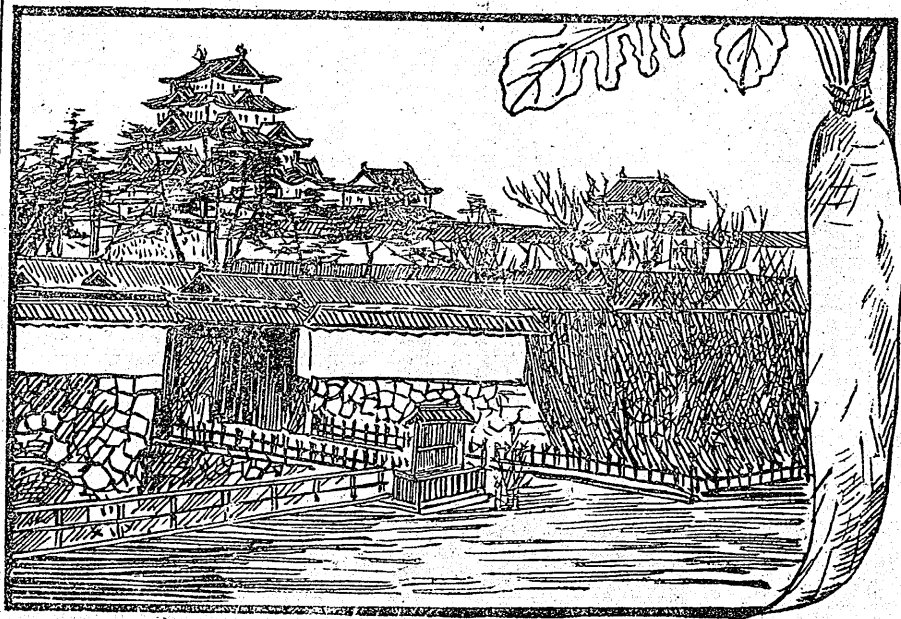
を外宮といふ。この兩宮は、我が國の宗廟にして、最尊き神宮なり。沿海には二見浦の勝景あり。伊勢國の物産は、津鯢子、萬古燒等なり。志摩の海岸に、島羽港ありて、參河の伊良胡崎と相對し、内海の口をなせり。内海に、尾張の知多半島あり。其の尾張參河の間に灣入する水を、衣が浦と云ひ、尾張と伊勢との間に灣入するを、伊勢海といふ。伊勢海に注ぐ大河を、木曾川といふ。源を、信濃に發し、美濃、尾張と伊勢との國境をなせり。河幅廣く、流ゆるやかにして、運漕灌漑、ともに便なり。

尾張

名古屋

人口

産物



尾張の名古屋は、三府に次げる大都會にして、東京大阪の中間にあり、百貨輻輳の地なり。人口、凡二十萬餘、第三師團、愛知縣廳あり。市街は、道筋正しく、縦横に通じ、七寶燒、名古屋扇等の産物あり。名古屋城は、最、壯觀な

名勝

る建築にして、天守閣の屋上に、金の鯨シヤクあるを以て、殊に著る。今は、第三師團の兵營たり。

熱田アツタは、名古屋の南一里にあり。名古屋の市街と相連る。熱田神宮は、草薙クサナギの御劍を奉安し、日本武尊を合せ祀りたる社なり。

半島

産物

熱田の東南に斗出する半島を、知多郡といふ。半田、龜崎あり。清酒を以て名高く、又、汽車の便ありて、武豐ムケトヨにいたる。其の常滑トコナベには、陶器の名産あり。其の他、尾張の産物は、瀬戸焼セトヤキ、有松絞アリマツシヨリ、宮重大根ミヤシゲダイコン等なり。

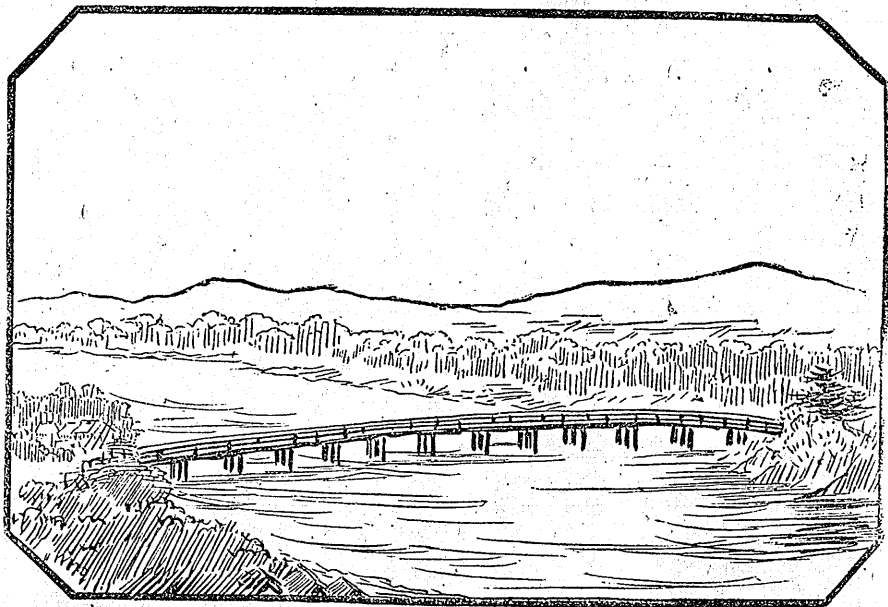
參河

川

都會

參河には、矢作ヤハギ、大平、豐川トヨカハの三大川あり。故に、國の名をも、參河とはいふなり。其の最大なるは、矢作川にして、其の東岸に岡崎あり。徳川家康の生れし地なり。豐川の南岸にあるを、豐橋といふ。衣が浦に近きを以て、

(川 作 矢)

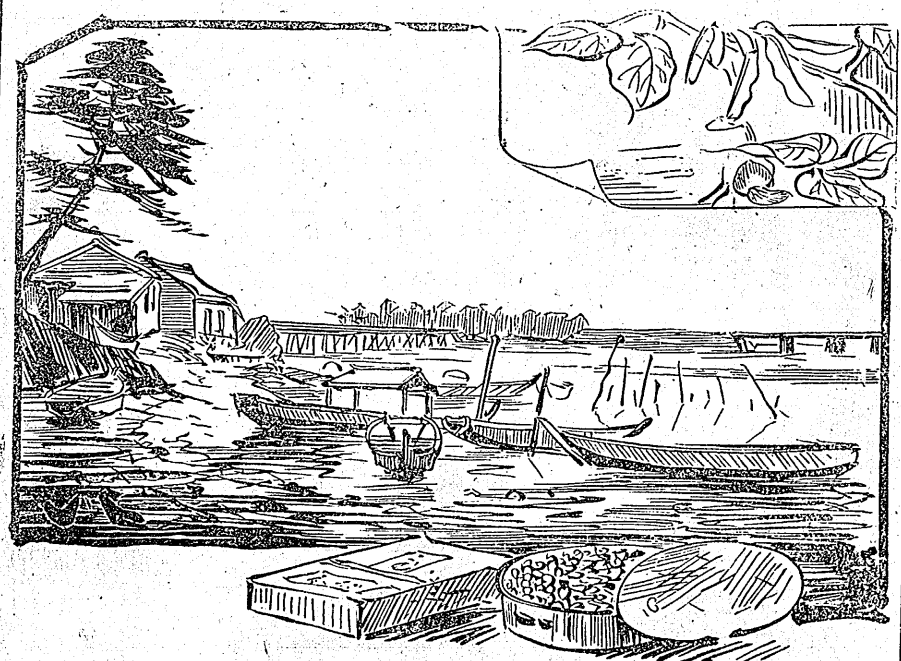


産物



運漕に便なり。
參河の物産は、木綿、
砥石等、其の重なるも
のなり。

湖 遠江



(豆納名濱及湖名濱)

遠江の西部に、濱名湖
あり。明應年中、大な
る地震あり、湖岸崩れ
て、湖水海につぶさた
り。其の切れ口を、今
切といふ。長さ二里餘

川

山

駿河

駿河灣

遠江灘

静岡

の長橋を架けたり。

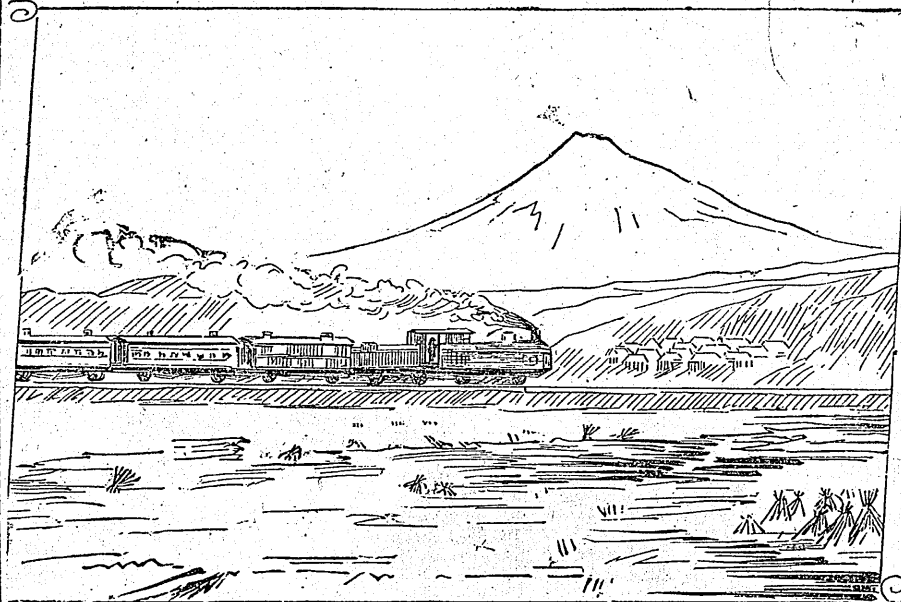
濱名湖の東に濱松あり。濱名納豆は、この地の名産
なり。其の東に、大なる川あり。天龍川といふ。源を
信濃の諏訪湖より發す。川の東に秋葉山あり。

遠江と、駿河との境に、大井川あり。駿河灣に注ぐ。
駿河灣は、東の方、伊豆の石廊崎と、西、遠江の御前
崎との間なる入海にして、其の外洋の、志摩の沖に
いたる一帯を、すべて遠江灘といふ。浪の荒さを以
て名高し。

静岡は、この國の都會にして、古は、府中、或は、駿

名勝

川



(富士山)

府と稱せし所なり。其の東に、清水港あり。三保松原は、清水港の前にあり。沙嘴海中に斗出し、其の上には、青松一帯に枝をまじへ、風景頗佳なり。

富士川は、甲斐より來る、有名なる急流にして、駿河灣に注ぐ。

山

産物

甲斐

甲府

産物

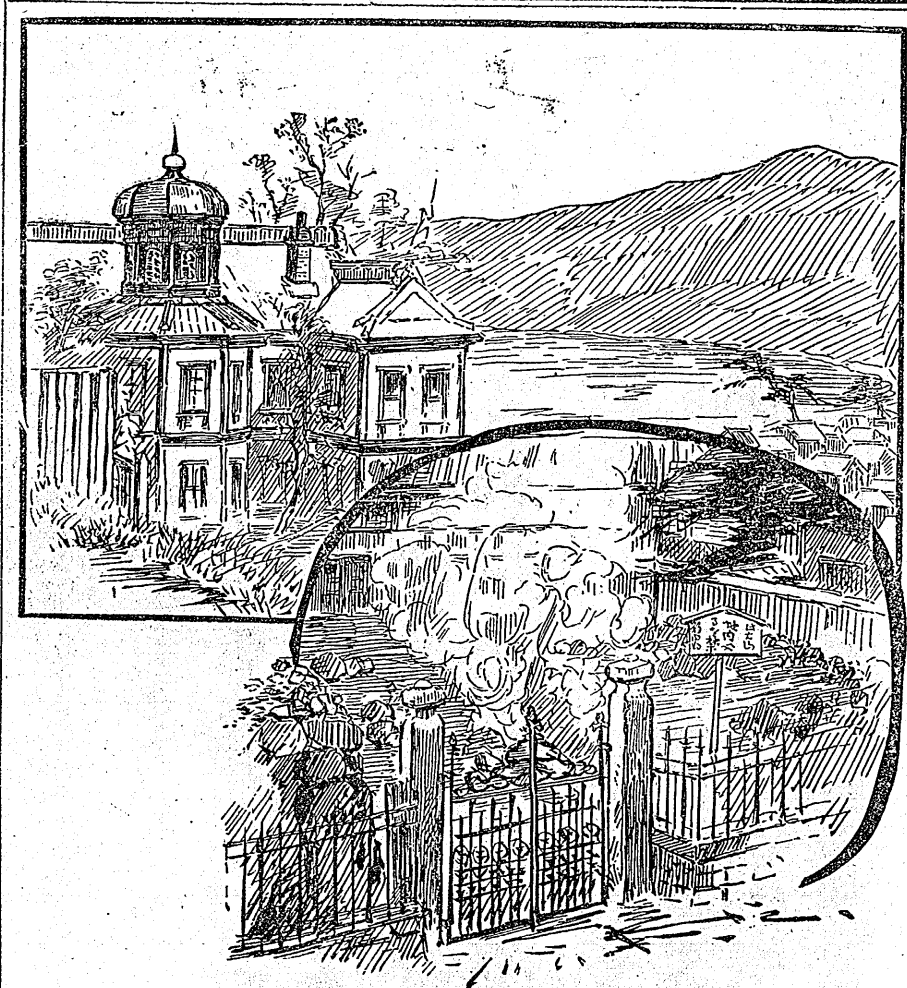
富士山は、駿河の東北隅にありて、甲斐に跨り、四時雪を戴けり。此の山は、昔時、火山にして盛に烟を吹きたりといふ。山上に、周圍一里ばかりの火口あり。半腹なる寶永山は、寶永年中に、噴出せしものなり。山麓の原野を、富士の裾野といふ。

駿河の名産は、竹細工、半紙、山葵漬等なり。

甲斐は、富士山の北にあり。四方、皆、高山にして、中央に平野あり。其の都會を甲府といふ。古、武田信玄の居りし所なり。甲斐は、養蠶、製紙の業、盛にして、郡内織、甲斐絹、水晶、硯、葡萄等の名産あり。

伊豆

山



(熱海温泉)

伊豆國は、到處概山にして、田圃少し。中央に、天城山あり。良材を産す。其の

崎

名勝

島

八丈島

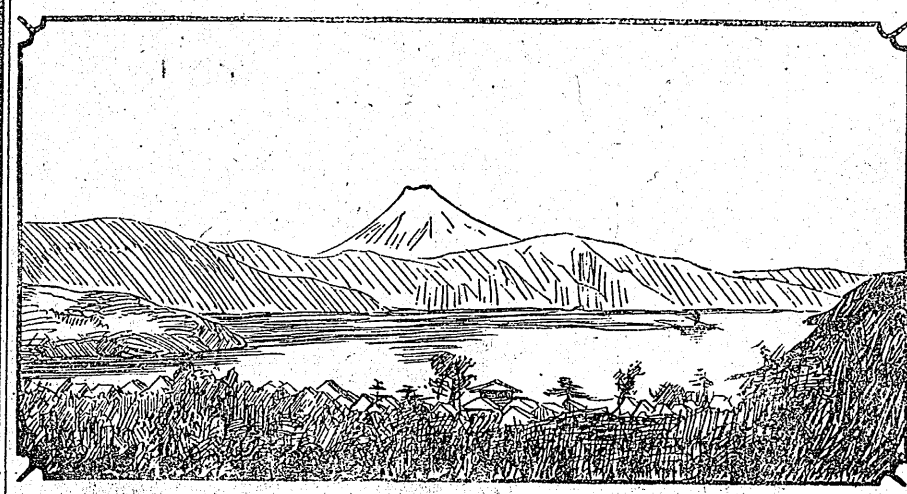
小笠原島

脈は、半島の南端に至りて、石廊崎となる。その東北にある港を、下田といふ。

伊豆の東北に、日金山あり。其の東の海岸に、有名なる熱海の温泉あり。浴客常に多し。

伊豆の東南の海上に散在せる諸島あり。これを、伊豆の七島といふ。此の諸島の南に八丈島あり。八丈島にて産する絹を、八丈織といふ。昔よりの産物にて、有名なり。八丈島の南、一百六十餘里にして、小笠原諸島あり。此の諸島は、後陽成天皇の朝に、小笠原貞頼が、見出たる島なるにより、小笠原島

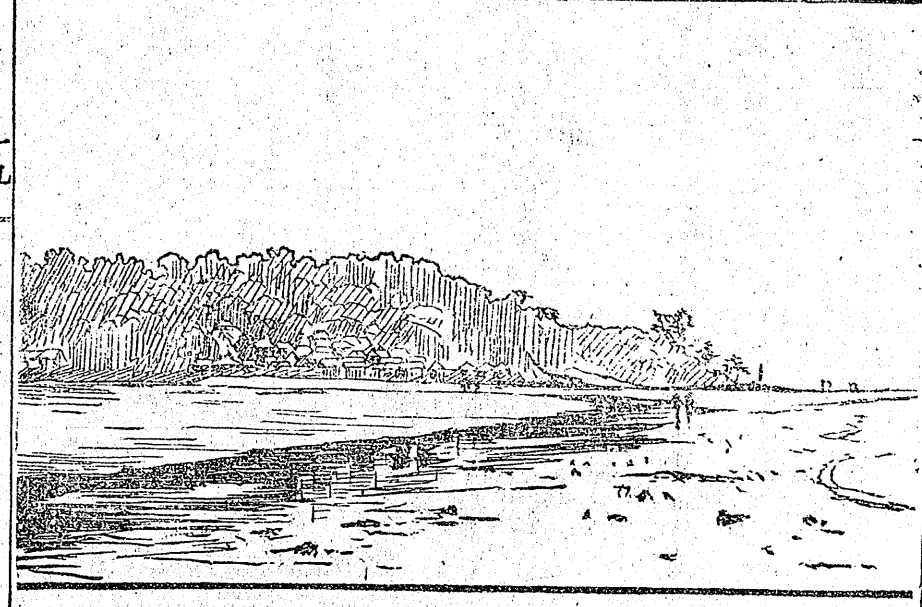
氣候 相模 小田原 山 湖 温泉



と名づく。其の島の大なるを、
父島、母島といふ。氣候暖熱に
して、地味宜しからず。
相模は、伊豆の東北にあり。西
は、皆、山にして、南と東は海
に濱す。相模の都邑を、小田原
といふ。箱根山の東麓にあり。
箱根山は、山上に蘆湖あり。山
間處々に、温泉あり。これを箱
根七湯といふ。古より、其の

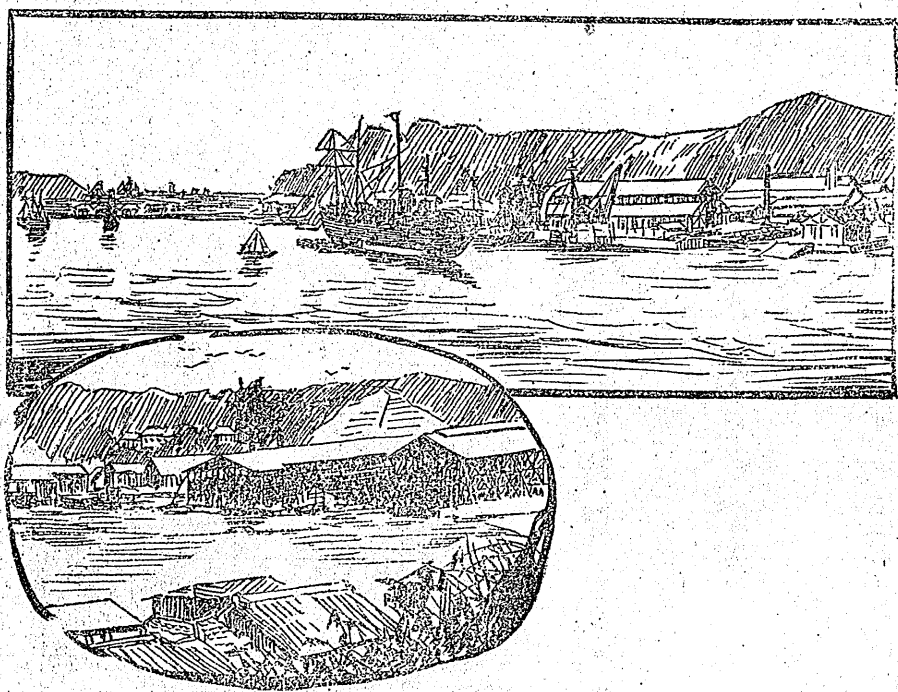
産物 中島

名、世に聞いたり。湯本
は、箱根の峠の下にあ
り。寄木細工を以て名
高し。相模の東南に斗
出せる半島を、三浦郡
といひ、其の端を三崎
といふ。西の方伊豆の
石廊崎と相對して、海
水を抱く、其の灣を相
模灘と云ふ。



名 所

軍 港



(横 須 賀 軍 港)

相模灘の海岸に沿ひて、鎌倉あり。昔源頼朝が幕府を開きし地にして、鶴岡八幡、鎌倉の宮、および、建長寺、大佛等の名勝あり。また鎌倉の西に、江の島あり。眺望頗よろし。

横須賀は、鎌倉の東

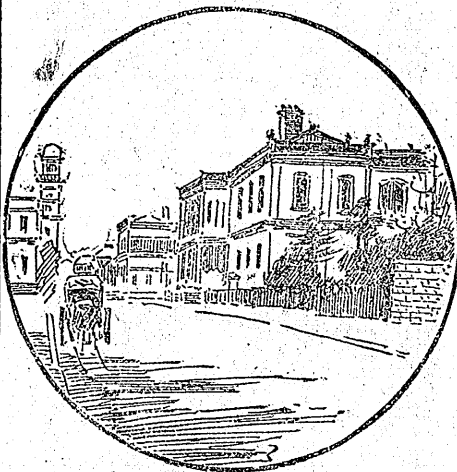
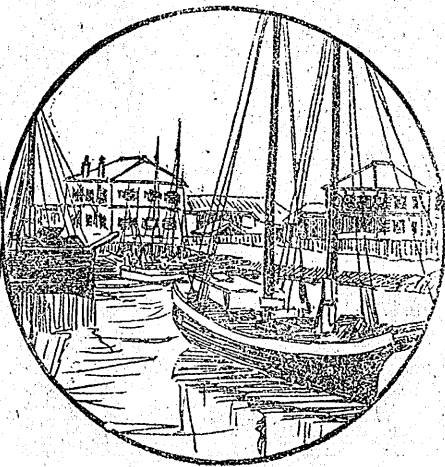
名 所

軍 港

南にある軍港にして、鎮守府、および、壯大なる造船所あるを以て、有名なり。

横須賀の東南に浦賀あり。嘉永年間に、亞米利加の使者ペルリの初めて來りし處なり。

横須賀の東南に斗出する岬を、觀音崎といふ。上總の富津崎と相望みて、共に、東京灣の海門をなし、要害の地なるに



(横 須 賀 港 及 浦 賀 港)

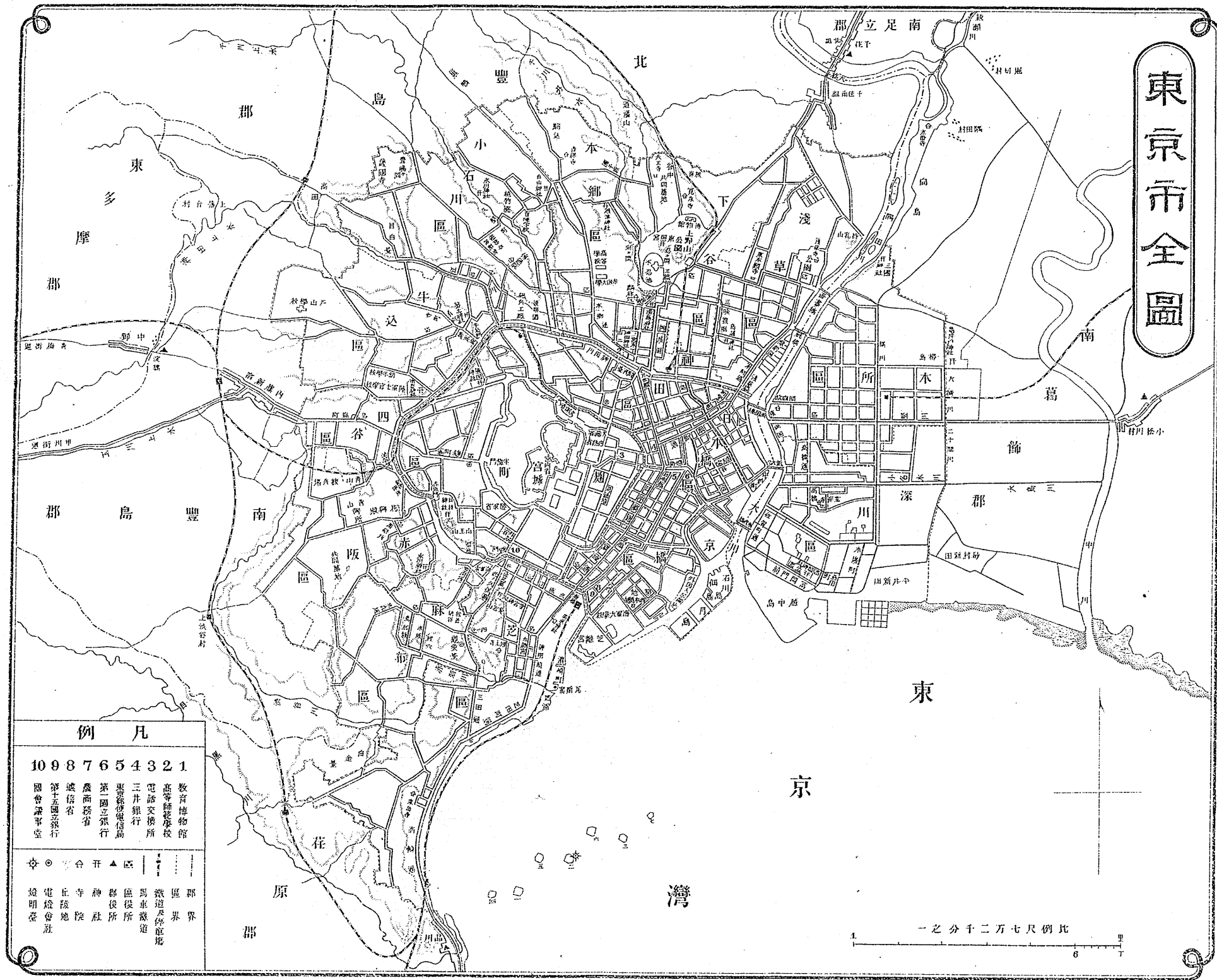
因り、砲臺を築きて、東京灣の守に備へたり。東京灣は、東西七里、南北二十餘里、其の西南に、横濱港あり。

横濱は、武蔵の國にあり。我が國五港の一にして、神奈川縣廳あり。人口およそ、十六萬一千あり。外國人の居留するもの多く、又、灣内水深く、内外の船舶出入して、絶ゆることなし。市街賑はしく、東京との間、汽車あげく往復し、交易の盛なること、全國第一なり。

東京は、もと、江戸と稱し、東京灣に臨み、隅田川

武蔵
横濱
人口

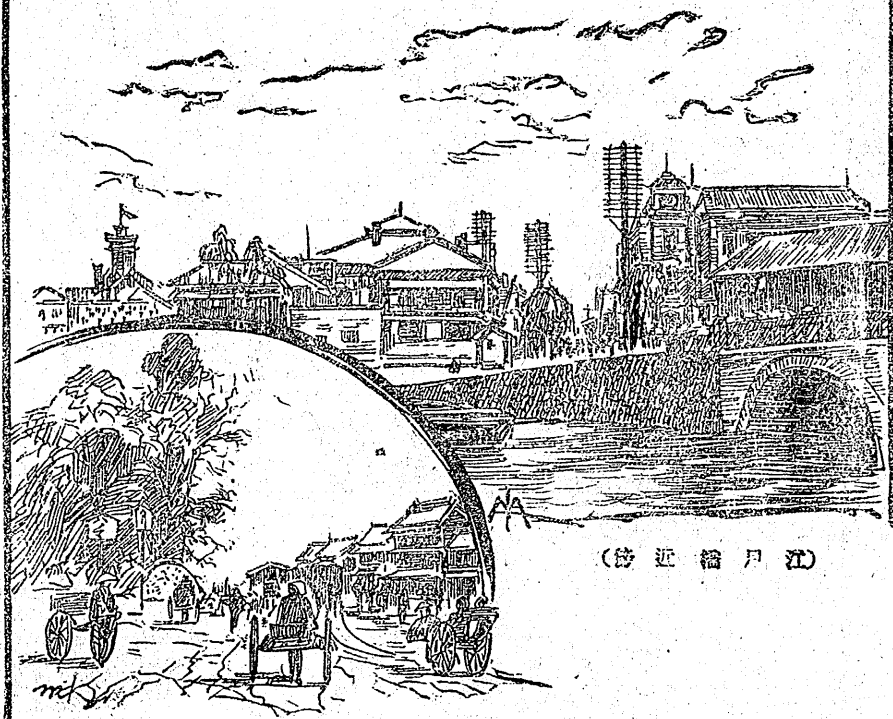
東京



東京

國人の居留するもの多く、又、灣内水深く、内外の船舶出入して、絶ゆることなし。市街賑はしく、東京との間、汽車あげく往復し、交易の盛なること、全國第一なり。

東京は、もと、江戸と稱し、東京灣に臨み、隅田川



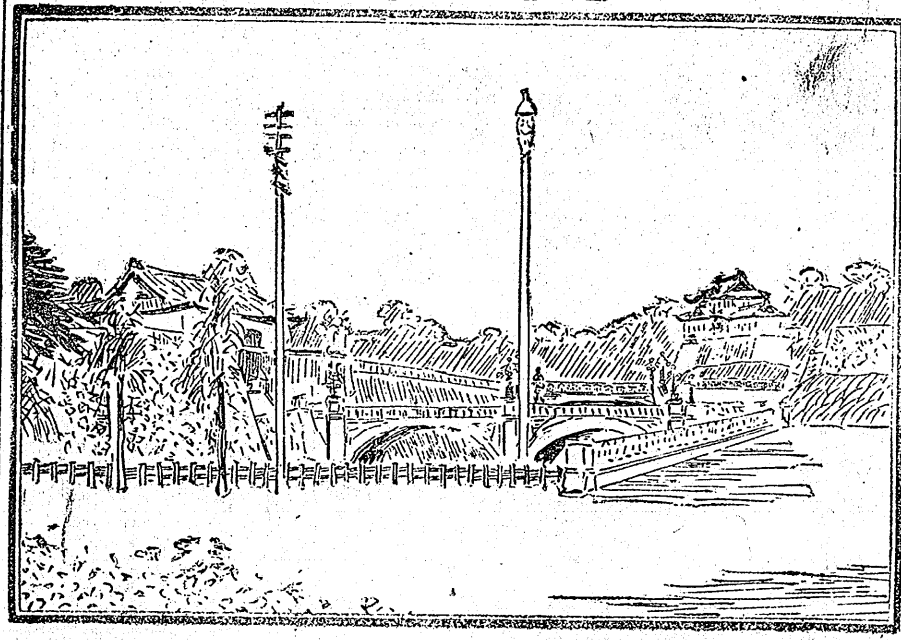
(江月橋近傍)

(上野公園)

に跨りたる大都
會にして、我が
天皇陛下の宮居
し給ふところな
り。
皇居は、中央な
る高き處にあり
て、いと尊嚴な
り。諸官衙、帝國
議會議事堂、近

人口

衛師團、第一師團等、其の傍に建ち並び、其の他、東京府廳、諸學校等ありて、建築、皆、壯大なり。市中は、電信、電話の線、縱横に連り、又瓦斯燈あり。電燈あり。暗夜も晝の如く、車馬の往來、晝夜を分たず。最、繁盛を極む。人口一



百三十餘萬あり。

上野、淺草、芝、九段坂上、湯島、深川、れよび、飛鳥山の公園地、隅田川の長堤は、東京の勝地なり。名産は、錦繪、淺草海苔等なり。

東京は、古、武藏野といひし荒野なりしを、太田道灌、始めて城を築き、其の後、徳川家康、幕府を此の地に設けしより、徳川氏十五代、二百六十餘年の間、天下の政をつかさどりし處なり。

武藏の國は、西方の一部に、秩父の諸山相連れども、其の他は、名高き關東の平野にして、田園遠く

地勢

産物

名勝

開け、多く穀物を産す。

東京の北五里に、浦和あり。西九里に、八王子あり。

浦和は、埼玉縣廳のある處にして、八王子は、織物を以て名高し。又、秩父絹、五日市織、狭山の茶は、共に、武藏の産物なり。

海をへだて、東京の東南に斗出し、東京灣を抱きて、半島をなせるは、安房、上總の二國なり。

安房の都邑に、館山、北條あり。極南の岬を、野島崎といふ。北境に、鋸山あり。眺望頗佳なり。

省 邑 産 物 中 島 安 房 部 合 山 岬

産 物

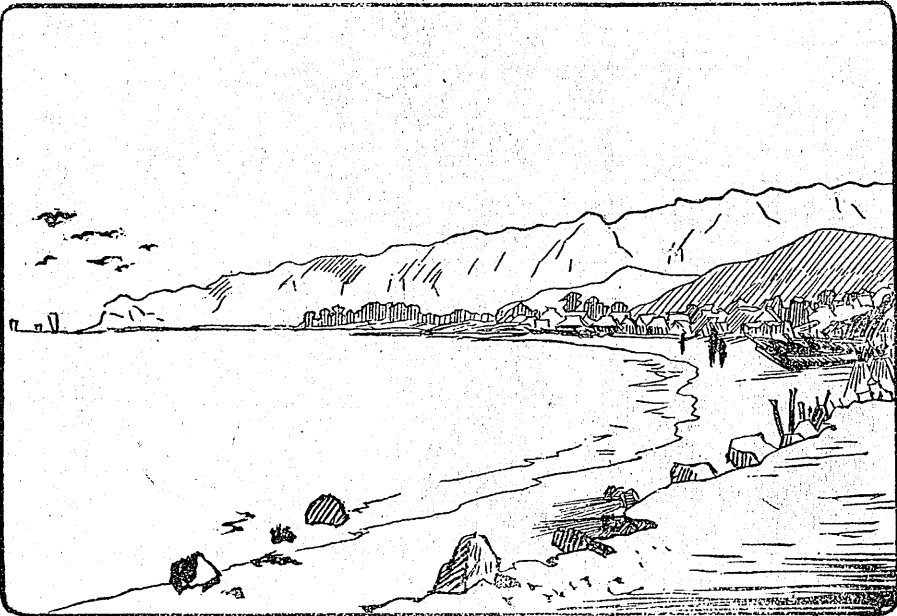
上 總

部 合

岬

山

九十九里



(山 岬)

秋刀魚、鰯、鯉等は、この國の物産なり。

上總の都邑は、木更津、東金あり。木更津の西南に、富津崎あり。觀音崎と相對し、共に、砲臺を築きたり。鹿野山、亦、風景よろし。東の海濱一帯は、下總の海岸を列ねて、九十九里と

下總 原野 千葉 川 井

稱し。鰯を漁するを以て名高し。上總の北にあるは、下總なり。下總は、平坦にして、小金原ガチガハラ、習志野等の原野あり。千葉は、東京灣に近く、千葉縣廳のある處なり。下總の西境を流れて、東京灣に注ぐ水を江戸川といふ。利根川

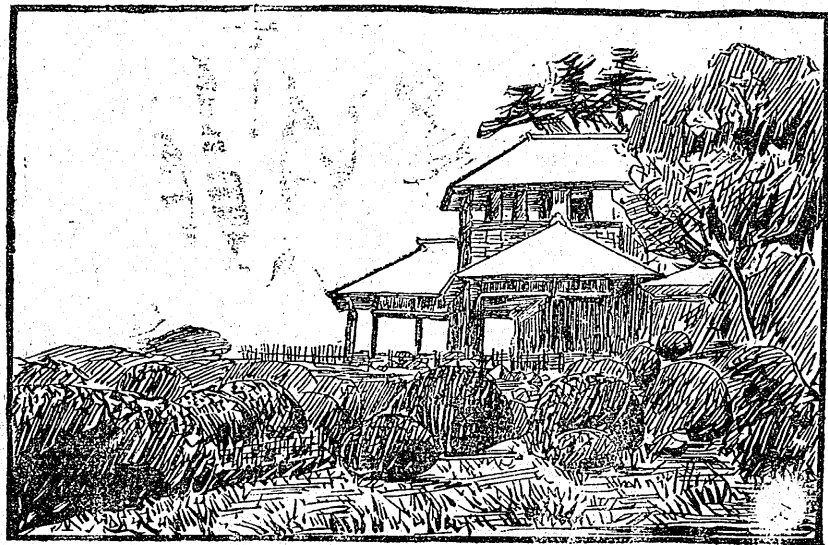


(鰯の子漁)

沼 港 産物 常陸 湖沼 名勝

の分流にして、武藏、下總の境を分つ。利根川は、上野より來り、印幡沼イハタヌマ、手賀沼テガヌマ、長沼等の水を合せ、下總、常陸の境をなして、銚子港チウシに注ぐ。其の沿岸に、佐原サハラあり。清酒を産す。銚子は、繁盛なる港にして、縮、干鰯等の産物あり。此の他、下總には、結城の紬ツムギ、木綿、佐倉の炭、行徳ギヤウトクの鹽、野田の醬油、流山の味淋等の産物あり。常陸の南部は原野にして、湖沼多し。其の名高きものは、霞浦カスミガウラと北浦キタウラにて、其の水共に、利根川に注ぐ。北浦の北に涸沼あり。又、北浦のほとりに、鹿島

山 産 水 川
産 物



(圖 樂 偕)

神社あり。神社の東は海に
瀕す、九十九里の北、常陸
の海を二帶に、鹿島灘と云
ふ。筑波山は、平野の間に
ありて、其の名、最、あらは
る、常陸の北部は山多く、
蒟蒻粉、烟草、紙、寒水石等
の産物あり。
水戸は、那珂川に臨み、茨
城縣廳のある處にして、偕

樂園と稱する著名の公園あり。那珂川の河口に那
珂港あり。

東海道地誌略表

國名山	野河	湖沼	岬灣	港	都邑	名勝	海島	產物
伊賀					上野			
伊勢				四日市	津 宇治	內宮 外宮	伊勢內海	津縹子 萬古燒
志摩				鳥羽				
尾張		木曾川			名古屋 熱田 武豐 半田 龜崎	熱田		七寶燒 名古 屋 瀨 戸 燒 有 松 宮 重 大 根
參河		矢作川 大平川 豐川	伊良湖崎		豐橋 岡崎		衣が浦	木綿 砥石
遠江	秋葉山	濱名湖 天龍川	御前崎		濱松		遠江灘	濱名納豆
駿河	富士山 富士裾野	大井川 富士川	駿河灣	清水	靜岡	三保松原		竹細工 牛紙 山梨漬
甲斐	天目山				甲府			甲斐織 山梨絹 現 水晶

伊豆	天城山		石廊崎	下田	熱海	伊豆七島	八丈島
相模	箱根山	蘆の湖	觀音崎	横須賀	小田原 湯本 三崎 浦賀	箱根七湯 鎌倉 江の島	小笠原島
武藏	秩父山	隅田川	東京灣	横濱	東京 浦和 八王子	上野 芝罘 芝罘 飛鳥山	八王子 織物 錦 秩父 五日市 織物 秩父 五日市
安房	鋸山				館山 北條		秋刀魚 鰯 鰯
上總	鹿野山		富津崎		木更津 東金		
下總	小金原 習志野	江川 利根川 長沼		銚子	千葉 佐倉 佐原	香取	
常陸	筑波山	霞浦 那珂川		那珂	水戸	鹿島	鹿島灘
							寒草 煙草 粉 紙

小學日本地理卷之一終

明治二十九年五月十九日印
明治二十九年五月廿八日發
明治二十九年八月十日訂正再版印刷
明治二十九年九月三日訂正再版發行

地理定價表			
小學日本地理卷之一	拾貳錢		
小學日本地理卷之二	貳拾四錢		
小學外國地理	參拾錢		
小學日本地理補習	參拾錢		
日本地理用掛圖			
外國地理用掛圖			



編者

發行兼印刷者

發兌

國光社
東京市京橋區築地二丁目
二十一番地

成澤唯次
東京市京橋區築地二丁目
二十番地

國光社
東京市京橋區築地二丁目
二十一番地

